

Topic123 米国スマートグロウス会議

東日本大震災において被害にあわれた地域の皆様に、謹んでお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

今回は、2月に米国で開催される予定の街づくりの会議について紹介します。

1. 会議の概要⁽¹⁾

2012年2月にカリフォルニア州サンディエゴで、「第11回スマートグロウス年次大会:安全、健全で活気のあるコミュニティ会議」が開催されます。**経済、環境、健康**といったコミュニティが直面する課題に取り組みつつ、いかに**社会的公平、手ごろな価格、経済と労働の場の発展、環境正義**を都市計画に盛り込むかについて議論する会議です。

3日間の会議中には、以下のようなプログラムが予定されています。

- ・ ハリケーンへの抵抗力のある沿岸域の街づくり:ハリケーン被害に対する抵抗力のある沿岸域を目指した防災に強い街づくり。ハリケーンカトリーナ被害からの復興における、スプロール化を避けたコンパクトなコミュニティづくりの検討。
- ・ 古いコミュニティの再生:中心市街地の活性化における、既存の建物のグリーンビルディング化。グリーンビルディング、歴史的建造物の保存、スマートグロウスを融合させた街づくりについて実際のプロジェクトから得られた教訓などの紹介。
- ・ ラウンフィールドとスマートグロウス:テキサス州やオハイオ州のブラウンフィールド再開発の事例紹介。

2. ライトサイジングな街づくり⁽²⁾

会議のプログラムで気になった言葉は、rightsizing (ライトサイジング)です。会議では、クリーブランド、デトロイト、ピッツバーグ、セントルイスなどの Legacy Cities (注:輝ける過去の歴史と資産を有する現在は衰退した都市)と呼ばれる都市において、新しい成長と投資を呼び込むためにいかにライトサイジング化を図るかが紹介されます⁽¹⁾。

<注:ライトサイジングとは、「規模と用途に応じた適正なコストで適切に必要なものを配置し、最適の状態とすること」を意味します。ウェブスターによると、1989年に使われ始めた比較的新しい言葉のようです。

最近、米国の様々な局面でライトサイジング (rightsizing)という言葉を目にします。大統領選で議論されている政府のあり方、アフガニスタンから米軍が撤退する際に議論されていた軍のあり方等々、日々のニュースでよく使われています。成長が頭打ちとなり縮小傾向にある米国の都市や地域の街づくりにおいても、良く使われているようです。>

デトロイトのような Legacy Cities は過去 50 年間に人口が半減し、中心市街地に空ビルが増加していきました。20 年前には、これらの空ビルは犯罪の減少を目的にただ取り壊されるだけでした。しかし、ビルの取り壊しによって都市の安全性は改善されても、都市の魅力は失われてゆきました。現在このような都市は、空ビルを取り壊し、公園や都市農園、コミュニティ広場、再生可能エネルギー施設といった“グリーン”な空間へと置き換えていっています。

しかし、取り残された過去の資産をグリーンビルディングやグリーンな空間に再生しても、現在および将来予測人口に対して過剰な施設を提供してしまっただけでは意味がありません。適切な規模の都市づくりを目指し、2010 年 4 月時点で米国の少なくとも 20 都市がライトサイジング計画を作成中です。ロチェスターとその周辺の市は共同でライトサイジングによる都市の再生を実行中ですし、シカゴやプロビデンスは再生の成功事例として知られています。

ただし、米国の大都市とその近郊都市は税収入においてライバル関係にあるようです。なぜなら、米国の一般的な中間層は大都市の中心地に住みたいとは思っていても、大都市の住宅税は払えず近郊都市に住み続けているのです。そうして、大都市は職場や余暇を過ごす施設を提供するだけの場となり住民は減少し続け、郊外都市はベッドタウンとして比較的健全な都市経営がなされているようです。税収入の公平性や均衡化の問題は、大都市とその近郊都市との共同のライトサイジングにおいて解決できるのかが注目されています。

出典

- (1) <http://www.newpartners.org/> (2012/1/13)
- (2) <http://www.citymayors.com/development/us-rightsizing-cities.html> (2012/1/13)

(村上の独り言)

最近、帰宅途中に自宅付近でタヌキに遭遇するようになりました。東京にはかなりの数のタヌキが生息しているという話は知っていましたが、昨年末に実際に見たときは驚きました。東京の街中出会った初めての野生動物といえます。

ところで、街中の野生動物といって思い浮かぶのは英国です。私の記憶する限り、英国の街中には野生動物があふれています。ロンドンでさえも街の中心部でリスが街路樹を忙しなく登ったり降りたりしていますし、地方都市の公園では大量のウサギが駆け回っています。パブの帰りには夜行性のハリネズミなどにもお目にかかれます。

ハリネズミはともかく、英国の景色に溶け込んだ愛らしいリスやウサギの姿を思い出すにつれ、暗闇に突然現れる東京のタヌキには好印象を持たずにいました。しかし、よく考えてみると、タヌキはキツネと並び日本の昔話や民話の常連。タヌキやキツネを使った慣用句や言葉は今でも日常会話にあふれています。遠くない過去において、日本人にとって身近な野生動物であった証なの

でしょう。その割には、私はその辺のことを良く知らない・・・

ということで、出現の不気味さなどを理由に簡単に嫌ってしまわずに、日本人とタヌキとの関係について少しでも理解することを今年の課題の一つとすることを、お雑煮を食べながら決めました。この場で成果をお知らせする日が来るのを楽しみに！ 本年もよろしくお願い致します。

バックナンバーはこちらからどうぞ！

「ERS Sustainable Site」：<http://www.brown-green.com/>

未来が変わる。
日本が変わる。

チャレンジ
25

イー・アール・エスはチャレンジ25キャンペーンに参加しています。